

## Shelter Animal Care for Better Adoptions

### より良い譲渡のためのシェルター動物ケア

Pamela BURNS President and CEO, Hawaiian Humane Society

パメラ・バーンズ ハワイアンヒューメインソサエティ 会長兼 CEO(最高経営責任者)



こんにちは。きょう、こちらの方にお越しくださしまして、ありがとうございます。よりよい譲渡のためのシェルターケアということで、動物の福祉に関してアメリカでも、日本でも、そして世界じゅうで非常に重要なお話です。

ンアドミッションということで、オアフ島で行っております。大体、100万人の人口がありまして、どのような動物も拒否しないというポリシーで行っております。そして30万匹の動物がおります。

まず、コメントなんですけど、アメリカでは少しイギリスと状態が違うということが言えます。それぞれのヒューメインソサエティがアメリカにあるわけなんですけれども、完全に別個なものになっております。ほかのヒューメインソサエティとは独立しております。そして我々ですが、このヒューメインソサエティの各支部ということにはなっていません、独立しております。英国ではRSPCAがこのピラミッドの一番頂にいて、そして指示、支部などがその下にあるというふうになっているわけなんですけど、一方アメリカではそれぞれ我々が独立した形で仕事をしております。

ですから、このヒューメインソサエティの指示、支援をするわけなんですけれども、そのお金が適切なおところにいくかどうかということの確認が必要だということになります。そしてこのヒューメインソサエティですが、オアフ島でこのような組織を持っているわけなんです。このハワイの州、あるいは郡と契約をしております。したがって、我々がヒューメインソサエティで政府との契約があって、動物の管理の契約をしております。

その結果といたしまして、我々はすべての動物を受け入れております。例えば、もう飼い主があきらめてしまったもの、迷子になった動物、それからまた行方不明になった動物、どんな動物でも我々のドアのところに来る動物、犬でも猫でも、それからまたいろいろな動物でありますけど、ヤギも来る場合もあります。そしてまた、馬も面倒を見ることがあります。すべての動物、どんな動物でも拒否いたしません。オープンドアのシェルターで、すべての動物を受けて入れております。【スライド2】

この私のきょうの発表ですけれども、特にいろいろなサービスを我々は提供しているわけなんですけど、その一つの譲渡についてお話をしたいと思います。この譲渡、あるいはリホーミングと呼んでおりますが、動物のリホーミングをしておりますが、そのほかのサービスにも特化しております。例えば、この迷子になった動物を飼い主に戻すとか、あるいは虐待、あるいはいじめを調



【スライド1】



【スライド2】

パメラ・バーンズと申します。そして私、ハワイアンヒューメインソサエティのCEOです。もう20年間CEOを務めさせていただいております。それほど年をとってるとは見えませんでしょう。このハワイアンヒューメインソサエティですが、ハワイで1883年に設立されました非常に古い組織であります。そのほかのアメリカの組織と比べますとかなり古いということが言えます。

私どもは非営利団体です。私どもはこのチャリティー団体によります寄附に依存しております。そしてオープ

査する。そしてまた、そのほかの特徴といたしまして、ハワイですが、よりペットフレンドリーな場所にしたいというふうに努力をしております。

この法令を通過させる、ペットフレンドリーのレンタルなどの法令を通過させることにより、そしてペットをしばらくの間見ることができるように、そして政府、そして地域社会であります、より多くの公園に動物、あるいは犬が行けるようにしたいというふうに思っています。

それからペットとともに、例えばペットビジテーションプログラムということで、動物にも行けるように、それからまた、ペットを失った人たち、すなわち自分たちの伴侶動物を亡くしてしまったという人たちに来てもらって、カウンセリングをしております。グループのセッションを行いまして、そしてそのような悲しみからどのように立ち直ってもらうかというようなことをしています。

きょうは私のお話ですが、譲渡のお話をしていきます。この譲渡なんですけれども、大体 5,900 匹以上を譲渡しております。主に犬、猫なんです、ウサギも、鳥も、モルモット、ヤギ、馬などもおります。ドアに、そこに来たすべての動物の譲渡先を探すということをしているわけです。【スライド 3】

譲渡の概要



猫・犬・その他の小動物を含む  
年間5,900匹の譲渡

【スライド 3】

私達の譲渡の成功の秘訣



- 健康管理
- 譲渡資格の査定
- フォスター ケア
- 行動トレーニング: 社会性 & 運動
- 譲渡カウンセリング & スクリーニング
- 譲渡後しつけ支援
- 譲渡後健康管理

【スライド 4】

このような譲渡の成功の秘訣なんですけれども、先ほども申し上げましたけれど、非常に大事なことといたしまして、非常に質の高い動物を地域社会に提供することです。1匹でも非常に攻撃的な犬がいて、それを譲渡してしまって、その悪いうわさが立ちますともう絶対このシェルターに戻って来てくれません。動物を譲渡したいというような気分がなくなってしまうということになるわけです。したがって、この短期的に見るということも非常に重要です。動物を譲渡するというのは大事です。しかしながら、長期的にもその譲渡の質ということ、これが非常に重要だということが言えます。将来、より多くの動物、よりよい家庭に行ってもらおうというチャンスが開くわけです。

さまざまなリソース、資源、教育、それからまた、その譲渡先にとっても教育が必要です。一つ一つの譲渡におきまして、我々が提供するもの、これが成功しなければならぬわけです。そして何百ドルもの資源を投入しております。そしてこの若い動物、若くてそして病気の動物であります、ボランティアのところに行きまして、そして健全になるまで待ちます。そして譲渡を待っているシェルターの動物ですが、この動物たちはトレーニングプログラムがありますので、その行動のトレーニングを受けます。基本的なしつけをしてみても、そしてまた、この譲渡先の人々にとって、非常に魅力的なものにするわけです。

そして、この将来の飼い主ですが、アドバイザーにありまして、そして動物のニーズがなんであるかということ、それからまた、財政的、あるいは個人のコミットメントということをしてもらうわけです。この動物のタイプによって違うわけなんですけれども、このような生涯のコミットメントというのがどうなるかというのは違ってまいりますけれども、我々は譲渡後のヘルスケアを、2週間なんですけれども、提供しております。そしてこれはチャージなしで、無料で提供しております。また、この行動のしつけですが、そのペットの生涯にわたってのアドバイスを行います。このプレゼンテーションではそれぞれもう少し詳細にお話をしてみたいと思います。【スライド 4】

ここでもまた、先ほど申し上げましたけれども、非常に健全な、質の高い動物を譲渡するようにしております。このような動物であります、もちろんギャランティーというのはありませんけれども、しかし適切な動物を、家族の生活に行ってもらおうということです。そして、行動の適切性があるかどうかということを見ております。

非常に危険な、攻撃的な動物というのは決して譲渡し

ないようにしなければなりません。

ですから、犬でかなり攻撃的であるというような兆候が見られましたら、スタッフに対して、この行動のアセスメントをしている間に、こういう犬がいるというようになりますと、安楽死になるわけです。我々のシェルターでの安楽死の基準というのは非常に社会化できない犬がいる、猫がいるというような場合にはその対象となります。そしてこの質の高いヘルスケアというのは非常に重要だということと言えます。

動物が譲渡される前に、さまざまな健康診断が行われます。寄生虫の予防であるとか、それから軽い病気の治療などを行います。そしてまた、我々は、すべての動物ですが、この譲渡に供するわけなんですけど、すべての犬、猫、それからウサギ、それからオスのモルモットですが、去勢あるいは不妊手術が行われます。すべての犬、猫、ウサギ、それからオスのモルモットは去勢あるいは不妊を譲渡の前に行われます。この不妊手術、去勢手術であります。犬、猫ですが、8週齢以降行います。

もちろん動物が我々のところに来て、8週齢以降であれば、譲渡の前に去勢・不妊を行います。犬、猫で小さい、あるいは2ポンド、これがいき値になっておりますけれども、不妊、去勢術を行います。そして、譲渡前に不妊・去勢術をすることによりまして、このような動物がきちんと去勢される、不妊されるということ、何もしないままでホームに渡して、そしてペットの飼い主にやってもらうということを期待するのではなく、先にしております。【スライド5】

**質の高い健康管理**



- ・ 譲渡適性スクリーニング
- ・ 健康診断 & 治療
- ・ 寄生虫予防
- ・ 伝染病の流行を最小限に留める
- ・ 問題のある犬のための特別予算

【スライド5】

K M x H ` t ` o JU K q M  
 x z b y ` M ` U M b w p z æ \_ o  
 O q M O \ q z f ` o K w , p q = `  
 o O q M O \ q z f ` o ¥ » > ` o  
 M ` o z f t ` o X b { f ` o l h q V t  
 x Æ I w j U p V o M q M O O  
 b { f ` o z " w æ p b  
 t t x z \ w O s ` w ¥ » >  
 U s Z y z V j q O \ q U p V  
 æ z b i Z p \ w ` o X h q \ t  
 v ` h {  
 y f T h z Ø < q M h ` ` o z t  
 G s ~ U M b { S X w h t l o X q M  
 O \ q p z C \$ s z « Q y [ U A p K q T z K  
 M x t [ s p b Z f w z T h X ^ w z  
 f w † £ » p t H ` z K M x > ' U u M q  
 M O \ q p z f w O s J U K X t 0 ` ` o z  
 G s / o z f ` o z f l o [ s r ` o  
 S b Å B t B / B B : A

**フォスターケアのしくみ**



**875 匹の動物がフォスターケアを利用**

- ・ 100人以上のボランティアネットワークがホームを提供。
- ・ 小さすぎる、または低体重の子犬や子猫を育てる。
- ・ 行動や健康面で特別な助けが必要な動物の世話。

A B t B / B B : A

**行動トレーニング  
社会化 & 運動**



- ・ 年間 800匹が「卒業」
- ・ ドッグウォーカー(散歩させる人) & ソーシャライザー(シェルターで社会性を身につけるトレーニングをする人)
- ・ 陽性強化(褒めて繋げる)方式の基本的トレーニング

A B t B / B B : A

f T O m p b U z æ  
 t M q V t R h z ? , < p R h q M O O s ø  
 t x z c 7 s t z æ ` w q \ t y ¥ f T z ~ E ` < z q =  
 » > ` o O Z p b { G w . Ø < w ¥ U K b { æ p , °  
 » ` U M b { æ > ` o z t " - / ` t M æ t 0 ` o l c  
 Æ I t x ^ a a W z f T h \$ s U J U K z X s p b Z r z f

ラムから卒業いたします。ボランティアを使いまして、非常にこれはボランティア主導型の組織です。また、プログラムはそのようになっております。ドッグウォーカー、すなわち散歩をさせてくれる、それからトレーニングをさせてくれる人、そしてこのリードでもってどのように歩いたらいいのか、またソーシャライザー、犬、猫両方ですけれども、シェルターで社会性を身につけるトレーニングをする人がおります。

それからまた、動物といたしまして、皆様方、私たちもそうですけれども、多くの時間を使って、そしてまた、何とかすばらしい優しい家庭、家族を見つけようとしております。そして我々は養成強化の方式だけを使っております。これが基本的なトレーニングとなっております、犬、猫の。そして、クリッカー方法というのを使っております。クリッカートレーニングというのを御存じの方いらっしゃいますでしょうか、かちかち鳴らして、そしてトレーニングをするというものですけれども、非常にポジティブなやり方のトレーニングです、犬、猫で行います。

猫に対しまして、どのように座つたらいいかということ、お座りというのをクリッカートレーニングで行っております。それからまた、ハイファイブですけど、この養成強化を使っております。この猫ちゃんにそのようなことを教えることによりまして、この潜在的な飼い主に非常にアピーリングだということが言えます。それからまた、犬に対しましては、首輪を使うかわりに犬のハーネスのようなもの、ジェントルリーダーを使っております。したがって、トレーニングが簡単になるということ、よいペットになってもらうために口輪を使わずに、このジェントルリーダーを使っています。【スライド7】



【スライド8】

それから譲渡のカウンセリング、スクリーニングですが、これは動物を助けるのと同時に、人についているいろいろなサービスがあるわけでありまして。顧客のサービスで

すけれども、これは非常に譲渡先の関係を確立するということが大事になってまいります。

人々が我々の施設に動物譲渡のために来る場合に、我々は一般的には非常に責任のある、そしてまた、情けのあるいい人だというふうに予想しているわけです。我々のシェルターに来て、そして新しい家族となるペットを得たいと思ってきているというふうに思うわけです。しかしながら、我々の譲渡カウンセラーはやはり、この譲渡先の人々が非常にロジカルな意思決定をしているかどうかというのを見たいわけです。新しい家族となるペットを譲渡してもらおうわけですけれども、いろいろと見たいと思うわけです。

将来、一体我々の人生が今から5年後どなるかというのはわからないわけです。ですけれども、人々と話して、そしてこのような将来の譲渡先で、どのような生活環境なのか、それから引越しの予定はあるのか、そしてまた、赤ちゃんをつくる予定があるのかとか、それからまた赤ちゃんができるのにこの犬の譲渡を同時にしたいという、これは意思決定として正しい時期なのかということで、ハワイアンヒューメインソサエティにおきましてはアドバイザーの形をとって、そして情報の提供であるとかをしております。そしてまた、意思決定にかかわるようにしたいというふうに思っております。すなわちこれをしなければいけない、そして、こうしなさいと、これはまだ譲渡にはあなたたちは適してないですよという、そのような決定的な言葉を言うものではありません。

そしてできるだけ、食べ物を食べていくため、あるいはその狩猟のため、あるいはただ単に番犬として使うためだけというものでは好ましくない。RSPCAと違って、我々はフォローアップをするために、譲渡後に調査に行くということはいたしません。時によりましては、犬によっては、主に犬なんですけれども、メディアの方が例えば、ほかの市よりもこっちの市の方がいいということで、人気取りのためにメディアを使うということがあります。ラッシーもそうなんですけれども、ラッシーも非常に人気があるわけです。英国ではフレイジャーというテレビショーがあります。ジャックラッセルという犬が出てきております。そして非常にうまくトレーニングがされていて、そしてまた、一体ジャックラッセルがテレビで行動しているようにさせるためにはどれぐらいの努力が必要かということとはわからないわけです。

いろいろな人に話しますと、犬の、例えばジャックラッセルなどですが、どれぐらいの努力が費やされているかということ、我々のところに来た同僚が最近いるんですけれども、非常に子犬のときにはかわいいけれども、し

かしながらどのような活動、あるいは作業、トレーニングが必要かということ、いい家族のペットにするためにはどれだけの努力が必要だったかということは余り考えないということになります。

オバマ大統領ですが、ポルトガルウオータードッグを、今、飼っております。一体、これから6カ月あるいは1年の間にこの種を見るということ、どれぐらい見るでしょうか。このポルトガルウオータードッグというのは、非常に人気が出てきております。メディアですが、非常に特定の種が、これがいい、すばらしいということを広告するわけです。したがって、我々はカウンセリングをするときに、いいマッチングかどうかということ、人々と動物の間にマッチングはどうかというのは、ただ単に、メディアでいいからといって飼うということではだめなわけです。

このポルトガルウオータードッグですけれども、これはこのヒューメインソサエティの駐車場ですが、以前にその2回譲渡された、そして3回目であったということで、これは非常にすばらしい犬なんですけれども、でも、この犬のためにエネルギーとそれから時間がありますかと聞きました。そして、はいもちろんというふうに言ったんですけれども、次の週戻ってきました。

ですから、次の犬ですけれども、今度はホームにいるようなボーダーコリーがいるんですけれども、その犬のニーズは一体何なのかということ、これを十分考えて、またトレーニングをしなければならぬというふうに思っております、戻ってこないように。【スライド8】



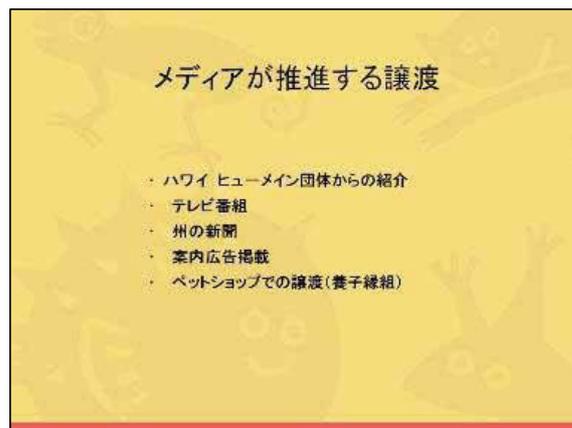
【スライド9】

さて、やはり譲渡を成功させるためにはどうするか、それはやはり施設です。清潔であり、魅力的で、そしてフレンドリーな、歓迎してくれるような雰囲気というものが必要です。人を迎えてくれるような雰囲気が必要なんです。我々の施設の中では、コミュニティーキャットハウスというものがあるんですけれども、ここでは猫が15匹から20匹一緒に入れられているんです、同じ部屋

にいるわけです。そしてビジターがやってくると、歓迎してくれるわけです。キャットハウスの中に入っただけ、そして猫と触れ合っただけということができるわけです。

それに加えて、それぞれの犬舎では犬や猫に対するプロフィールを掲示しています。こういった行動があるか、そして我々がみんなが知りたいと思うようなところ、例えばエネルギーいっぱい犬であるとか、子供が好きな犬だとか、そういったようなキャラクター、特性を掲示しています。

それからシェルターですけれども、300匹は一つのシェルターに収容しています。そして、75匹の犬がありまして、たくさんの犬がいるわけです。そして、譲渡を待っているわけですけれども、これらもやはりボランティアやスタッフが必ずこの犬舎を清潔にしているということが必要。それから犬がおとなしく、落ちついていくということが必要だと思います。そうするとビジターの方々にとっても魅力的であるということがわかります。【スライド9】



【スライド10】

それからもう一つ、譲渡に関する問題ということですが、やはりメディアが推進する譲渡というものがあるわけです。私メディアを批判いたしました。すなわち、人気犬種の衝動買いを起してしまうということなどを申し上げました。しかしながら我々にとりましても重要なパートナーなんです。譲渡の促進をしてください。そしてハワイヒューメイン団体からの紹介ということも言ってくれています。

それから双方向性のウェブサイトで未来の里親を捜しています。これによりまして、人々はウェブサイトを見て、こういった里親を待っている犬が、あるいは猫がいるかがわかるわけです。それからテレビのチャンネルの中では里親探しのペットを紹介してくれるチャンネルもあるわけです。いろいろな情報も提供してくれるところです。こういったTVチャンネルは我々無料でもって出

させてもらっています。

それから、毎週ですけど、ペット案内の掲示板に広告を出しています。これに対しても追加的な質問、あるいはQ&Aですね、質問と答えを書くようなところがあります。譲渡に関する質問に関しましては、あるいは行動の問題に関してはお答えをするということになります。それから、新聞の広告に関しまして、ペット案内掲示板に関しましては有料ですので、私たちはお金を払っています。ハワイアンヒューメインソサエティがどういったものを持っているかということを見せているわけです。

それから、ペットコ-というペットショップがあるんですけども、契約をしております、いわゆるペットショップなんですけども小売店をたくさん持っております。彼らの店に我々のペットを置いていただいて、そして里親探しに協力してもらっています。【スライド10】

p z f ' o ? / x T p  
w z w - \* ' o s b { . æ " - /  
' t ? w U R o M T - \* ' o Ⅱ ' Ⅱ Ⅱ  
? p K y j f i j t f U p V T q M O \  
q - h Z p Ⅱ Ⅱ t B / B B : : A

カスタマーフレンドリー アワーズ 営業時間



営業時間  
平日  
11 am ~ 7 pm  
週末  
10 am ~ 4 pm

A B t B / B B : : A

オアフ住民はどこでペットを入手するのか？

ペットを飼おうとするとき、  
一番先に浮かぶ場所は？

ペットをどこで入手したか？

・ ハワイヒューメインソサエティ 38%	・ 友人や家族 41%
・ ペットショップ 35%	・ ハワイヒューメインソサエティ 14%
・ 友人や家族 9%	・ ブリーダー 13%
	・ ペットショップ 13%

【スライド11】

譲渡の費用



- ・ 犬または猫一匹につき \$65
- ・ 6歳以上の犬・猫は、60歳以上の人に譲渡される場合無料。
- ・ 小動物は\$25

A B t B / B B : : A

\ x t fl M - i q ¥ O f p b Z r z æ I w ; p b Z r  
z c z « Q y ¿ ~ ' S O q b q V p b Z Vr ' o - ^ ) ' o M b { f T  
z j t T t x r \ T q M h q \ z , w ° , t 0 ' o z f w l t 0 ' ' o x ^ p  
. æ " - / ' i q t Q M Ⅱ { t , M , = U p M z t  
' h { ' T ' s U f w z » ~ æ ' h p b { f O s p b Z r z @ ' w  
M r \ p ¿ ~ ' ' h T q M O t ' ' w X z ^ t ' ' o x ^ p ' o M q M O  
' o x z , x H T i Q t l o M b { p b x z w K 8 x æ I p b Z  
p b T z x f x R ^ \$ t s Z r z ' ¿ ~ q M O \ q p ^ w D Z o S  
y s s M q M O \ q s p b { f ' o z æ I U p V ' o z w p w ^ ' o M b { \ O  
æ U h X ^ M i q M O \ q ^ s Z y b s \ q t l o z f T h æ ' S O q M O >  
d A { B t B / B B : : A , j t s l o M h i X \ q t s A B t B / B B : : A  
x z fl æ ' ' z < w / p x ' æ U G V M æ I w - ~ p b Z  
p b { ¿ ~ ' M h M Z r S U ( s M q z f [ ' h O t S H t Z b q M O \ q x K d  
i T o ' O q M O > h X ^ K Z { ' ( % w O s p x M d  
p b { \$ » E - s z \ q x ' o x H ^ g z b s j f U æ I ' h t 0 '  
t q l o - \$ s w p b { ? z K ' M o x ? H ^ g l o M æ I b ^ { b q z  
o M b { f ' o z f x p V i Z t 0 ' o z z ( u + % w - U s M T z K M x T w - x  
b s t K Z o M Z p b { J x s M T q M O \ q \_ Z p b { f ' o l w M

が我々の方に持って来ていただいて、そして無料でもって2週間治療を行うということになっています。

それに加えて、動物が我々から譲渡されますと地域の獣医師を紹介するというプログラムがあります。獣医師も無料で最初の訪問では治療してくれるわけです、診断してくれるわけです。完全な形で評価する、診断してくれます。ですから、できるだけ早く何か問題があれば診断をして、そして出戻りをしないということになるわけです。

それから、譲渡後ですけれども、訓練を受けたボランティアがいて、里親の方に電話をしてくれます。これは3日目、3週間目、そして3カ月目に譲渡後に電話をするというものです。例えば動物の行動的な問題についての電話をするわけです。これらの行動がシェルターでは見られなかった行動を示されている場合、それらはその家で初めて見せた行動を示すということもあるわけです。猫の場合、よくあるんですけれども、トイレでしないということもあります。こういった問題、例えばトイレで便あるいは尿をしないという場合、こういったものに対して我々のスタッフがサポートするということになります。動物の行動トレーニング、これは行政強化法という形でもってトレーニングをするというアドバイスをします。【スライド14】



【スライド14】



【スライド15】

譲渡成功率ですけれども、これも我々は測定しています。実際に約6,000の譲渡件数がありまして、この中では12%の犬の出戻り率、そして7%の猫の出戻り率となっています。我々にとりまして、譲渡して成功するというのは非常に重要なことでありまして、行動の問題があるわけですが、例えばシェルターでの行動と、そして譲渡先での行動というものが違うということがあります。これがうまくいかないという場合、あるいは猫がほかの猫とうまくいかないという場合もあります。これはできるだけ里親に対して譲渡を促進しています。トライしてください、動物がどのように行動するか、家でするかは我々にはわからないということでトライしてくださいと言うんです。

そして、もしそれがうまくいきそうであれば、我々に返すということよりも頑張ってください。そしてできるだけ、例えば我々に戻さなければならぬ場合も、罪悪感を感じないでいただきたいというふうに言っています。うまくいかない場合は戻してください、そして、もう一つの機会、ほかにより猫や犬がないかどうか探してみるという機会も提供しているわけです。

これが我々の譲渡プログラムの概要ということになります。どれだけ重要かと、すなわち、シェルターの中で動物が譲渡すると、譲渡されるということがどれだけ重要か、それはやはり質の高いプログラムであるとか、やはりプロフェッショナリズムが必要です。それによって一般市民が自信を持って里親になることができるわけでありまして。そして自分たちの家に迎え入れることができるということになると思います。【スライド15】

御清聴ありがとうございました。



○山崎恵子

いろいろと情報満載の御発表をありがとうございました。今、ちょっと思い浮かんだことを一つだけ申し上げたいと思います。先生がおっしゃった、一番大切な、だめであれば戻してくださいというのは、これは実は本当に大切なことなんです。譲渡している団体だけではなく

て、犬を売っているブリーダーさんなどもそうですが、もし何かがあってだめであったら、必ずうちに戻してくださいねと言う方のみ信用してください。出しちゃったら関係ないというような方は信用できる譲渡や販売をしていません。だめだったら必ず、この子はどっかへやっかわないでうちに戻してくださいということを、念を押されれば押されるほどこの人は信用できるなというふうに私は思います。次に、日本を代表していただきまして兵庫県の動物愛護センターの三谷先生に御登場いただきたいと思います。よろしく願いいたします。